

持続的養蚕業確立事業

(令和7年度農林水産省補助事業)

1. 趣旨

近年の繭の生産量の減少により、国産生糸は国内生糸需要の0.13%と量的に非常に少なくなっている。将来にわたって蚕糸業が産業として持続可能なものとするためには、少量であっても実需に求められる品質と数量を確実に提供する体制を構築する必要がある。養蚕現場では、蚕や桑の病害への対応等繭の安定生産のための技術指導が必須であるが、地域の指導体制は弱体化している。特に、桑園については、全国的な実態が把握されておらず、改植計画もなく、桑苗の供給体制も整っていない。また、一部地域で桑萎縮病が発生しており、早期に主要産地において専門家による桑園診断を行い必要な対応策を助言していくことが急務となっている。このため、蚕糸科学技術研究所の技術者に加え、桑の専門家を技術アドバイザーとして新たに登録し養蚕農家への助言を行うとともに、今後の桑園管理指導の基礎とするため養蚕農家の桑園の情報を収集し既存の養蚕農家情報と合わせてデータベース化する。

一方需要面では、絹業関係者の国産生糸取扱量が減少し販売インセンティブが低下している。このような状況を打開するため、国産生糸製品に対する需要を喚起する環境づくりとして、「蚕糸の日」に関連したイベント等を活用して、蚕糸業の現状やその歴史的・文化的価値について消費者の理解を深めるとともに、「国産繭・生糸応援団（仮称）」を設立し企業や個人のサポーターを募る。また、国産生糸の強みを活かした付加価値の高い製品づくりに向けて、トレーサビリティ確認のための安定同位体を用いた生糸の産地判別、製糸工程の国際的な有機認証（GOTS 認証）、少量多品目生産システムの構築について検討する。

2. 予算額 8,603 千円

3. 事業実施主体 一般財団法人 大日本蚕糸会